

## 保育機関と家庭とのより良い関係構築にむけて（2）

### ：保育評価と保護者への発信

How to make a good relationship between early childhood education institutions and parents (2) : early childhood education assessment and release to parents

松浦 真理

MATSUURA Mari

保育機関と家庭との両方で生活する子どもにとって、保育機関と家庭とがより良い関係性を持っていることは重要である。そのために保育機関は園での子どもの様子について保護者に発信し、子どもの遊びについて理解を深めるための努力をしている。ここでは園から保護者に保育内容理解を促進するための1つの手段としての「写真付き保育記録」を取り上げる。とくにN市における市域全体での新しい保育記録シート導入について、その内容や変革期に直面する難しさについて検討した。導入の初期段階では、保護者への保育理解促進のための書き方と、事例検討会で使用する場合の保育記録の書き方を、いかに近づけるかという難しさが確認された。

#### 1. はじめに

本報告は前稿（松浦 2023）に引き続き、保育機関と家庭とのより良い関係構築を模索するものである。前稿では施策レベルと現場レベルでの、保護者への見方の違いを明らかにした。施策では保護者の多忙な状況を鑑み、保育機関から保護者に向けて何を提供できるかが強調されていたのに対して、現場では保育者は全体として保護者を良いサポーターだとみなし、子どもにとってより良い保育をすることや保護者の話に耳を傾けることで、できる限りの保護者支援をしようとしていることがわかった。子どもを中心とした、保育者と保護者の呼応的な関係を重視し、保育者・保育機関からの支援であっても、一方的に何かをするということではなく、保護者側からの積極的な働きかけを望んでいることも判明した。

本報告では、保護者からの働きかけにつながる仕組みづくりの1つとして、N市における写真付き保育記録を取り上げ、その作成プロセスについて検討した。この写真付き保育記録は、A4 1枚に、保育者が「ここは！」と思う遊びの場面や子どもの様子を写真に撮って掲載し、保育内容を保護者にわかりやすく伝えようとするものである。そこに込められた保育者の思いと、子どもの育ちにとって遊びがどのように大切か、遊びから子どもが何を学んでいるのかを理解していただくことをねらいとしている。さらに、親子でできる活動や遊びの提案も試みる。家庭での、保護者と子どもとの教育的関わりにつなげ、保育機関と家庭、両方での子どもの育ちが連続すること、保護者にはこれまで以上に保育内容に関心をもってもらおうとするねらいもある。

同市の写真付き保育記録にはもう1つ見逃してはならない特徴がある。それは、保育者の負担軽減に少しでもつながるように、写真付き保育記録と保育の自己評価のためのエピソード記録とを共有しようとしている点である。N市では従来子どもの遊びの連続性を重視した丁寧な見取りを文章化し

---

<sup>1</sup> 帝塚山大学 教育学部 教授

て、そのエピソード記録を保育機関内や相互の事例検討に使用するという伝統があった。それを上述の家庭向けの写真付き保育記録と共有する試みを始めたのである。

写真付きの保育記録は、海外の例に倣って近年全国的に使用する保育機関が増加している。しかし、その記述方法や利用の仕方は様々であり、多くの場合は保護者へのわかりやすい保育発信を目的としたものになっている。一方、保育カンファレンスなど保育者自身の評価についてはビデオを使うものが多いほかは依然としてエピソード記録を利用しているものが多い（阿南他 2023）。本報告で、写真付きの保育記録をエピソード記録として事例検討会で使用すること、すなわち保育の自己評価やピア評価に使用することと、保護者に向けてわかりやすく保育理解を促すための発信とのすり合わせの難しさと可能性を検討する。

## 2. 写真つき保育記録の全国的展開とその背景

日本では2000年過ぎ頃から、イタリアのレッジョエミリア市を中心とした地域の保育のプロジェクト（ワタリウム美術館編 2011 など）や『子どもたちの100の言葉』（レッジョ・チルドレン 2012）が注目をされ始めた。写真付き保育記録の一つである「ドキュメンテーション」はここで始まったものである。日本における写真付き保育記録の活用は、このドキュメンテーションに倣うものが多いが、子どもの記録を5つの視点で毎月撮影していくニュージーランドの「ラーニングストーリー」なども紹介されるようになって、さらに普及するようになってきた。

現在、写真付き保育記録は多くの保育現場で活用されている。従前から保育現場では、行事ごとの子どもの集合写真や行事を楽しんでいる子どもの写真を保護者に向けて発信してきたが、近年の写真付き保育記録は上述のような海外における保育記録を参考に、異なるねらいをもって活用されようとしている。例えば小学館から『ポートフォリオ入門—子どもの育ちを共有できるアルバム』（森 2016）、『日本版 保育ドキュメンテーションのすすめ』（大豆生田・おおえだ 2022）が発売されているが、これらの2冊は、同社の保育雑誌「新 幼児と保育」の別冊のような形のMook本として出版され保育現場での写真活用の幅広い提案をしている。上記2冊の著者らは海外での写真を活用した保育記録に詳しい専門家であるが、それを単純に日本に導入しようとしているのではなく、日本の現場で利用しやすくわかりやすい工夫を示し、インパクトのある表現と構成となっている。

保育の可視化や保護者への発信が時代の趨勢（文部科学省 2023）となっている現在、海外の技法を取り込んで日本流に活用していくのは多忙な保育現場における自然な流れであり、日本の保育現場に応じた使われ方が今後もさらに検討されていくものと考えられる。保護者に対する発信として写真付き保育記録は多くの保護者にも好意的に受け止められている（前田・浅井 2022、藤川 2022 など）ようで、「日本版保育ドキュメンテーション」は保護者の保育現場の理解を促す大きな役割を果たしているといえるだろう。以下で示すように、N市でもこの流れのなか、写真付き保育記録を導入することになった。

## 3. N市における写真付き保育記録の導入経緯と作成プロセス

N市における写真付き保育記録（以下、シートと略す）を保護者への発信と保育評価の両方に活用する取り組みが実施されたのは2022年度からである。国内では、文部科学省が提唱する「社会に開かれた教育課程」や厚生労働省による「保育所・保育士による地域の子育て支援」などの提言により、家庭との連携・協力がこれまで以上に求められるようになった頃である。また世界的に見ても、保育の質向上のための5つの方策の1つとして「家庭や地域への関与」が重視されるようになってき

これまで各保育機関に任せられていた保護者への発信を市域全体として取り組み、同時に、自己評価の1つとして年度に5回実施されてきた事例検討会に同じものを活用することで、保育者の負担軽減も図ろうとしたのである。

一方、新たなシート（図2）は、「写真」、「エピソード」、「保育者の思い」、「子どもの育ちや学び」「家庭だったら・・・」の5項目をA41枚に収めたものである。写真枚数も含めて各項目の分量やどこに記入するか配置は記入者に任せられている。「エピソード」は子どもの活動の様子、子どもや保育者の行動や言葉、まわりとのやり取りなどを記入する。「保育者の思い」には、エピソードを選んだ理由とともに、保育者の思いや意図、援助、環境構成を記入する。「子どもの育ちや学び」には遊びの経験からどのような力が育ち何を学んでいるのか、「家庭だったら・・・」には園での活動につながるような、家庭での子どもの姿や親子で出来る簡単な活動の提案などを記述する。

このシートは保護者への発信を第1の目的としているため、誰が読んでもわかるようにすることや子どもの育ちや学びも端的に記入すること、家庭への提案も簡単なものにすることなどが市側から保育者に説明された。シートの特徴は、①子どものありのままの姿、素晴らしさ、おもしろさ、意外性などを写真で示すことができる、②保育者が感動した瞬間を切り取り、その時の何がすごいのか、なぜそう感じたのか(日頃のどんな姿からそこにつながったかなど)のその子どもへの保育者の思いを示すことができる、③日ごろから3つのコンセプトや10の姿あるいは「高校卒業までに育てたい3つの資質能力」を認識しておき、その瞬間が、どのような観点に当てはまるのかを示すことで、遊びが学びであることを保護者に知らせることができるというものである。

「おもしろいなるもの」		発表形式	種
主役	主役	自由発表発表	絵画
<p>おもしろい「おもしろい」な物や現象を自分なりに感じ取り表現する。</p> <p>①自然物に似せ、自分なりに感じ取り表現し、自由に表現する。</p> <p>②自然物に似せ、自分なりに感じ取り表現し、自由に表現する。</p>			
自由発表発表		自由発表発表	自由発表発表
<p>1. 主役の「おもしろい」な物や現象を自分なりに感じ取り表現する。</p> <p>2. 自由発表発表。自由に表現する。</p> <p>3. 自由発表発表。自由に表現する。</p>			
主役	主役	自由発表発表	絵画
<p>おもしろい「おもしろい」な物や現象を自分なりに感じ取り表現する。</p> <p>①自然物に似せ、自分なりに感じ取り表現し、自由に表現する。</p> <p>②自然物に似せ、自分なりに感じ取り表現し、自由に表現する。</p>			
自由発表発表		自由発表発表	自由発表発表
<p>1. 主役の「おもしろい」な物や現象を自分なりに感じ取り表現する。</p> <p>2. 自由発表発表。自由に表現する。</p> <p>3. 自由発表発表。自由に表現する。</p>			

  

「おもしろいなるもの」		発表形式	種
主役	主役	自由発表発表	絵画
<p>おもしろい「おもしろい」な物や現象を自分なりに感じ取り表現する。</p> <p>①自然物に似せ、自分なりに感じ取り表現し、自由に表現する。</p> <p>②自然物に似せ、自分なりに感じ取り表現し、自由に表現する。</p>			
自由発表発表		自由発表発表	自由発表発表
<p>1. 主役の「おもしろい」な物や現象を自分なりに感じ取り表現する。</p> <p>2. 自由発表発表。自由に表現する。</p> <p>3. 自由発表発表。自由に表現する。</p>			
主役	主役	自由発表発表	絵画
<p>おもしろい「おもしろい」な物や現象を自分なりに感じ取り表現する。</p> <p>①自然物に似せ、自分なりに感じ取り表現し、自由に表現する。</p> <p>②自然物に似せ、自分なりに感じ取り表現し、自由に表現する。</p>			
自由発表発表		自由発表発表	自由発表発表
<p>1. 主役の「おもしろい」な物や現象を自分なりに感じ取り表現する。</p> <p>2. 自由発表発表。自由に表現する。</p> <p>3. 自由発表発表。自由に表現する。</p>			

※線の大きさは変更可能

图 1.

图 2.

こうしてスタートしたシートは2年が経過して、各園や保育者ごとに工夫がなされ、多くの園で保護者に好意的に受け止められていることが判明している<sup>(\*)</sup>。しかし、保育者の負担を軽減する意味もこめて保育の自己評価用の事例記録と共有したことについては、逆に多くの保育者から戸惑いの声上がるようになったので、次節ではこの点について確認、検討する。

#### 4. 保育評価のための記録を保護者へ発信する難しさ

本節の内容は2024年1月に実施されたN市の事例研修会に先立って実施されたアンケートおよび提出されたシートを参照するものである。アンケートは25か園の幼児クラスの担当者による自由記述によるもので、これまでエピソード記録を丁寧に記述してきた保育者にとって保護者に向けたシートを事例検討会で使用することについての様々な難しさが認められた。筆者はこの事例研修会にコメンテーターとして参加したので、以下では、どのような悩みがあったのか、相談件数の多かったものから順番に挙げ、それに対する提案を示した。

##### ① 事例の読み解きの記述が専門性・文章の多さにつながるのでしょうか。

保育者が保育記録の保護者への発信で一番苦労していると考えられるのは、保育現場独特の表現を用いてよいのか、エピソードや保育者の思いの記述量の多さにより、保護者が読みたくなるのではないかという不安であった。たとえば、「・・・充実感を味わう」「受容的・応答的に関わる」「探索活動が活発になる」などの表現は難しいものではないが、一般的には「・・・大変満足した様子で気持ちが充実する」「子どもの話すことや行動をよく見て受け止める」「興味関心が広がって試したり、不思議に思って活動が広がったりする」などの表現のほうがわかりやすいと考えられる。分量は、細かい字でびっしり書かれているものも多かったが、事例研修に用いるには不十分だったようで、ここに収めきれなかったさらに詳しい記述を別紙として持参している保育者が多かった。

これについては、確かに保育の自己評価向けと保護者向けで表現や分量を変えることができればそのほうが望ましいが、登降園時の短い時間に保護者が全部を読み込むことは少ないので、保育者の負担も考え、まずはタイトルや写真について特にインパクトを考えて保護者に興味を持ってもらうようにすること、そして、読んでもらいたい項目、たとえば「子どもの育ちや学び」「家庭だったら」などをわかりやすく、保護者の立場で記述することを提案した。その上で、事例検討会には現行のようにその写真にまつわる詳細な記述メモを持参してもよいのではないかと伝えた。

##### ② 毎日、また一定の時間、継続する子ども同士の遊びの様子を伝えるには1枚のシートでは収まらない。

これまでの事例記録では、時系列で子どもの遊びを追い、その継続した中で育まれる子どもの力や子どもどうしの関係性を詳しく伝えることができた。そのため、1枚のシートの中でそのことをできるだけ伝えたいという努力がみられた。25ヶ園から提出された25枚のシートに61枚の写真が提示されていること、つまり1枚のシートに時系列の写真が何枚も掲載されていることからそれが伺える。

これについては、日や時間を通して連続する遊びにも日や時間によって異なる姿、成長した姿があるのであれば、連続していることを1枚のシートに全て載せようとせず、連続した遊びについて毎日何枚も写真を撮りためて、今日はこの子に着目しようとか、今日は昨日から発展した中でこんなこと



があったなど、今日はココ！という着眼点を決めてシートを書き分けることができるのではないかと提案した。保護者は同じ遊びであっても、違う表情の子どもたちの生き生きとした様子を何枚も知るほうが嬉しいと思われるからである。

- ③ 特定の子どもにばかり焦点が当たらないようにする配慮や子どもへの支援を知られないような配慮をしたいがどうしたらよいか。

25 枚のシートに提示されている 61 枚の写真のうち、個々の子どもの表情や気持ちがわかりやすく読み取れる写真は 12 枚程度であり、それ以外の写真は、1 枚にできるだけ多くの子どもが全体的に置かれているものが多かったことから、この悩みが伺えた。また、困りを持った子どもについてはなかなかクローズアップできないことへの心配も見られた。

これについては、どの写真にも全体像を見せるのではなく、クラスのお子さん全てが学期中に一度はクローズアップされるように心がけることを提案した。可能であれば各期で 1 回とりあげれば、その子どもについて 1 年で 5 つの成長記録が出来上がることになり、保護者との面談時にも利用できるからである。その方針を保護者にあらかじめ伝えることで、保護者の理解も得やすくなるかもしれない。

#### ④個人情報保護の心配

前項とも関係するが、個々の子どもの顔などが大きく写真にあがることについては、個人情報保護の観点からどうしても理解が得られない保護者もおられるだろう。また、保育機関に立ち寄る人の中には不審人物がいる可能性も否定できない。

そこで、自分の子どもの顔を絶対出したくないという保護者がおられる場合は、その子どもの顔だけ「顔マークシール」などを貼る提案も試みた。さらに、シートの掲示は時間を決めて保護者がよく目に触れる場所に出す以外は保育室内など掲示するなど、一般的に園外の人に触れる場所には極力出さない。そして保育室にシートを掲示することで子どもにとっても興味深い自分たちの活動の振り返りになる可能性を指摘した。

### 5. おわりにー保育評価の記録と保護者への発信とのすり合わせ

N 市の保育者の間では、そもそも家庭への発信物と、保育者自身の振り返りのための保育記録とを共有するという考え方が適切なのかどうかという素朴な疑問があった。それは、子どもの保育について、保護者に伝え、その理解を促進するための内容と、自分たちが理解し情報を共有して保育の質の向上に役立てるための内容とが、詳しさと質について同じでよいのかという疑問に言い換えることができる。

秋田・松本（2021）によると保育記録の意義は大きく 3 つに分けられる。1 つ目は子どもを知る、つまり子ども理解のためで、日本でも 19 世紀の終わりごろから、こどもの発達段階に基づく姿を客観的に記録することが始まった。2 つ目は保育研究のためである。これには 2 つの流れがあり、子どもや保育者のやり取りをそのまま記録にして「伝え合い保育」ということから保育の理論化を目指したもの、保育者が子どもと接する「いまここ」の場面を詳細に「エピソード」として書き起こし、保育者の省察や同僚性の構築を目指すものである。3 つ目が子どもの成長を見つめ保護者に伝えるため、これは近年の傾向である。保護者への発信は従来園だよりなどが発行されてきたが、ドキュメンテーションやラーニングストーリーなど海外の手法が用いられて保護者との連携を促す手段となっ

いる。

また、厚生労働省の保育評価に関するガイドライン（2020）においては、保育内容の評価の意義目的の1つが、保護者など関係者との理解の共有と連携促進のためであり、保育計画と実践の振り返りおよび保育の充実や改善に向けた検討を、連絡帳や面談、送迎時などを通して保護者と共有することの望ましさが示されている。また同ガイドラインのハンドブックには写真や動画などを利用して保育プロセスを伝えることが例として挙げられている。

以上からわかることは、保育記録には子ども理解や保育研究のためであることに加えて、近年は保育評価の記録を保護者と共有し、家庭に発信することためのものになりつつあるということである。ゆえに、この2つはできる限り共有できることが望ましいのではないだろうか。N市におけるシートの活用を今後も継続的に確認、分析することを通して、保育者にとっても保護者にとっても無理なく子ども理解がすすめられ、保育の質向上につながるためのシートの在り方について模索していく予定である。

\*2024年6月にN市内の公立こども園、保育園、幼稚園29園にアンケートを実施した結果である。この結果については別の機会に記述する。

#### 引用文献

- 秋田喜代美・松本理寿輝（2021）『保育の質を高めるドキュメンテーション 園の物語の探求』、中央法規。
- 阿南 寿美子・島田 知和・田中 洋（2023）「保育カンファレンス研究の現状と今後の展望」、西南女学院大学紀要 vol. 27、135 - 142。
- 大豆生田啓友・おおえだけいこ（2020）『日本版保育ドキュメンテーションのすすめ』、小学館。
- 藤川（2022）「保護者に対する保育活動の伝え方の変更による効果の検討」、淑徳大学短期大学部研究紀要 64号、145 - 151。
- 前田和代・浅井拓久也（2022）「保育におけるドキュメンテーション活用に関する一考察（2）」、東京家政大学研究紀要 62 集（1）、41 - 48。
- 松浦真理（2023）「保育機関と家庭とのより良い関係構築に向けて（1）：保護者とはどのような存在か」、帝塚山大学子育て支援センター紀要第4号、17 - 25。
- 森真理（2016）『ポートフォリオ入門—子どもの育ちを共有できるアルバム』、小学館。
- 山本理絵・原明子（2018）「保育におけるドキュメンテーションに関する研究」、人間発達学研究第9号、75 - 89。
- レッジョ・チルドレン（ワタリウム美術館編、田辺敬子訳）（2012）『子どもたちの100の言葉』、日東書院本社。
- ワタリウム美術館編（佐藤学監修）（2011）『驚くべき学びの世界 レッジョエミリアの幼児教育』、東京カレンダー。
- OECD（2019、英語版初出2012）『OECD 保育の質向上白書—人生の始まりこそ力強く：ECECのツールボックス』、明石書店。

厚生労働省（2020）「保育所における自己評価ガイドライン（2020年改訂版）」、  
<https://www.mhlw.go.jp/content/11907000/000631124.pdf>（2024年1月6日情報取得）

文部科学省「幼保小接続期の教育の質保障の方策に関するワーキンググループ報告書」、  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/086/siryo/1422639\\_00011.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/086/siryo/1422639_00011.htm) (2023年1月28日情報取得)